

オンライン福祉職場説明会アンケート集計結果

北海道福祉人材センターでは、令和3年度に実施した「オンライン福祉職場説明会アンケート」の結果を取りまとめました。

結果は、本センターのHP (<http://hfjc.jp/>) に掲載します。

【調査概要】

- 1 目的 福祉職場説明会においてアンケートを実施し、昨今の求人側・求職側の考えやニーズ、状況など把握し、今後の求人求職活動の推進を図る。
- 2 実施日 令和3年12月12日（日）、19日（日）、令和4年1月22日（土）
- 3 対象 参加申込者182名（一般101名／学生81名）
事業所 59法人
- 4 方法 オンライン福祉職場説明会参加者、参加事業所（法人）にインターネットを通じてWEBアンケートに回答
- 5 回答数 参加者40名（回答率22%）
事業所57法人（回答率97%）

【調査結果のポイント】

◆ 福祉職場説明会アンケート（参加者用）

問1 これまでにオンラインでの説明会やイベント等の参加について

「今回が初めて」が最も多く 52.5%、参加したことが「ある」が 45.0%であった。

問2 オンライン説明会の参加状況について

説明が「伝わった」が 50.0%の一方で「伝わりづらかった」が 45.0%であった。

質問については「なかった」が 55.0%の一方で「しづらかった」が 12.5%であった。

30分の説明時間については「ちょうど良い」が 82.5%で、「短い」が 12.5%であった。

問3 今後、参加したい開催方法について

今回の開催方法同様「法人の説明を複数名で聞く形式（カメラ・マイク OFF）」が 45.6%と最も多く、続いて「会場に集合する対面形式」が 30.9%であった。

参加事業所アンケートにおいて同様の質問をした結果、最も多かった回答は「会場に集合する対面形式」37.9%で、続いて「オンラインで法人と1対1で面談する形式」が 23.3%であった。

オンラインでの参加の場合、求職者側はカメラ・マイク OFF を望む傾向が高く、事業所側はカメラ・マイク ON を望む傾向が高いことが伺える。

問4 性別

回答者の性別は、「女性」が 60.0%を占めた。

問5 年齢層

回答者の年齢層は、「20歳代」が 30.0%と最も多く、続いて「40歳代」と「50歳代」が 25.0%であった。過年度と比較して 40歳代（令和元年度 19.9%、令和2年度 15.8%、令和3年度 25.0%）の方の参加が増加し、60歳以上（令和元年度 7.8%、令和2年度 12.7%、令和3年度 7.5%）の方の参加が減少した。

問6 お住まい

「札幌市内」が 55.0%、「札幌市外」が 37.5%となった。

例年の傾向で、8割程度が札幌市内からの参加のため、オンライン開催は札幌市以外からの参加がしやすいことが伺える。

問7 現在の職業

現在の職業状況は、「無職」が 35.0%と最も多く、続いて「学生」が 32.5%であった。

また、就業中の方（1会社員～5病院・医療関係職員）の参加が 20.0%となった。

過年度と比較して学生（令和元年度 29.8%、令和2年度 27.0%、令和3年度 32.5%）の方の参加が増加したことから、オンライン開催は学生が参加しやすいことが伺える。

問8 福祉職場説明会を何で知ったか

「人材センター・バンクの案内」が 28.6%で、続いて「学校」が 20.4%であった。

問9 参加された動機

「就職・転職のための情報収集」が 62.5%と最も多く、続いて「福祉職場に興味があるため」が 27.5%、「応募先として検討している」が 7.5%であった。

問10 福祉職場での勤務経験の有無

勤務経験「なし」が 65.0%であった。問8により回答者の多くが学生であったことから「経験なし」の割合が高くなったと考えられる。

問 1 1 現在保有している資格

「無資格」が 26.2%と最も多く、続いて「介護福祉士」が 18.0%、「その他*1」が 13.1%であった。なお、「無資格」が増加傾向（令和元年度 17.9%、令和 2 年度 24.9%、令和 3 年度 26.2%）となっている。なお、何らかの資格を保有している方は、60.5%の反面、上記（問 1 1）では、福祉職場での勤務経験「なし」と回答された方が 65.0%を占めているため、資格保有者であっても勤務経験がない方の参加が多いことが伺える。

*1 社会福祉士見込、教員免許、福祉住コーディネーター等

問 1 2 希望する福祉職場の分野

「高齢者福祉施設【通所】」が 16.1%と最も多く、続いて「高齢者福祉施設【入所】」が 14.3%、「知的障害者関係施設」と「児童福祉施設（保育所以外）」が 9.8%となった。

昨年度と比較して、「高齢者福祉施設【入所】」を希望する割合が減少傾向（令和 2 年度 19.7%、令和 3 年度 14.3%）で、その反面「高齢者福祉施設【通所】」が増加傾向（令和 2 年度 12.6%、令和 3 年度 16.1%）となっている。

問 1 3 希望する雇用形態

「正規職員」を希望する方が 54.3%と最も多く、続いて「非常勤・パート」と「雇用形態にはこだわらない」が 17.4%となった。

問 1 4 福祉職場への就職を希望する理由

「人・社会に役立つ仕事だと思ったから」が 24.0%と最も多く、続いて「対人援助の仕事をしたいと思ったから」が 17.3%、「やりがいのある仕事だと思ったから」が 16.3%となった。

昨年度と比較して、「やりがいのある仕事だと思ったから」が 11.9%減少（令和 2 年度 28.2%、令和 3 年度 16.3%）し、その反面「人・社会に役立つ仕事だと思ったから」が 7%増加（令和 2 年度 17.0%、令和 3 年度 24.0%）した。

問 1 5 就職先を選ぶ上で重視していること

「賃金・賞与額等」が 17.4%と最も多く、続いて「職員同士の人間関係」が 16.5%、「勤務時間帯・曜日」と「福利厚生」が 11.6%となった。

昨年度と比較して、「職員同士の人間関係」が 8.7%増加（令和 2 年度 7.8%、令和 3 年度 16.5%）し、「勤務時間・曜日」が 4.2%減少（令和 2 年度 15.8%、令和 3 年度 11.6%）した。

問 1 6 就職にあたり不安に思っていること

「職場内の人間関係がうまくいくのか不安」が 17.7%と最も多く、続いて「人出不足が原因で 1 人あたりの仕事量が多くないか」が 15.9%、「休暇を取得できるのか」が 13.3%となった。

昨年度と比較して、「体力の不安」が 7.1%増加（令和 2 年度 5.3%、令和 3 年度 12.4%）した。

なお、問 1 6 で就職先を選ぶ上で重視していることとして「職員同士の人間関係」があがっていたが、加えて問 1 7 で就職にあたり不安に思っていることとしても「職場内の人間関係がうまくいくのか不安」と回答した方がいることから、採用活動及び人材確保を行う上で、求職者が不安に思っていることへの対応・改善が重要であると考えられる。

問17 新型コロナウイルスの流行語、求人募集や採用、職員体制において変更したこと

主に、「募集活動、見学、面接、採用試験においてオンラインを取り入れた」「合同説明会の機会が減り参加・採用が減った」「全施設での集合研修は極力控え、施設単位で行う等に変更した」「コロナ対策をしている旨を求人票に記載するようにしている」「SNSの活用で職員とのコミュニケーションを取るようにしている」「学生の実習を受け入れられないため、実習から応募へ繋がりにくくなっている」などの回答があった。

問18 新型コロナウイルスの流行後、就職活動に対する心境の変化や、求人票を見る際に気にするようになったポイント

主に、「職場見学の有無、職場見学ができないことが不安」「感染の勢いが強い時期は、積極的に就職活動をすることに躊躇している」「通常より人員が必要なため、人員の余裕、緊急時に施設の支援があるか」「給料より安心感をより重視するようになった」などの回答があった。

◆ 福祉職場説明会アンケート（事業所用）

問1 これまでにオンラインでの説明会やイベント等の参加について

参加したことが「ある」が82.5%であった。

問2 今後、参加したい開催方法について

「会場に集合する対面形式」が37.9%と最も多く、続いて「オンラインで法人と1対1で面談する形式」が23.3%であった。

参加者アンケートにおいて同様の質問をした結果、最も多かった回答は「法人の説明を複数名で聞く形式（カメラ・マイク OFF）」で45.6%を占めた。なお、「会場に集合する対面形式」が30.9%、「オンラインで法人と1対1で面談する形式」は13.2%となった。

問3 職員を採用するにあたって重視すること

「人柄」が41.6%と最も多く、続いて「保有資格」と「土日勤務・夜勤・宿直勤務できること」が20.0%となった。

過去3年間、「人柄」が最も多く、上位3項目（「人柄」「保有資格」「土日勤務・夜勤・宿直勤務できること」）に変更はなかった。

問4 採用したい職員の性別

採用したい職員の性別は「問わない」が75.4%最も多く、続いて「男性」と「女性」が12.3%となった。

昨年度と比較して、「男性」が10.0%増加（令和2年度2.3%、令和3年度12.3%）した。

問5 採用したい職員の年齢層

「30歳代」が33.3%と最も多く、続いて「問わない」が31.6%、「20歳代」が24.6%となった。

昨年度と比較して、「問わない」が15.0%増加（令和2年度17.1%、令和3年度32.1%）し、「20歳代」と「40歳代」が5.0%程度減少した。

※「20歳代」…5.9%減少（令和2年度30.9%、令和3年度25.0%）

※「40歳代」…5.6%減少（令和2年度14.5%、令和3年度8.9%）

問6 採用する職員に求める資格

「介護福祉士」が20.8%と最も多く、続いて「社会福祉士」と「介護職員初任者研修」が8.0%となった。

昨年度と比較して、「看護師・准看護師」が4.3%増加（令和2年度7.2%、令和3年度11.5%）した。

参加者アンケートにおいて、上記資格を保有している割合は、介護福祉士が18.0%（昨年度より2.8%増加）、社会福祉士が1.6%（昨年度より1.9%減少）、介護職員初任者研修が4.9%（昨年度より4.7%減少）であった。回答者の多くが学生であったことから資格保有者の割合が減少傾向になったと考えられる。

問7 採用する職員に求める人物像

「協調性のある人」が19.8%と最も多く、続いて「思いやり・やさしさ・温かさがある人」が10.7%、「コミュニケーション能力がある人」が8.5%であった。

平成29年度から5年続けて、1位は「協調性のある人」であり、上位3項目（「協調性のある人」「思いやり・やさしさ・温かさがある人」「コミュニケーション能力がある人」）に変更はなかった。

問8 職員を採用するにあたっての課題

「夜勤・宿直等の勤務時間帯を希望する求職者が少ない（昨年度より1.9%減少）」が15.7%と最も多く、続いて「大学・専門学校等からの応募が少ない（昨年度より3.3%増加）」が13.4%であった。

昨年度1位だった「施設・事業所の交通の便が悪い」が5.8%減少（令和2年度17.6%、令和3年度11.8%）した。

問9 職員募集の際に利用している機関等

「ハローワーク」が32.1%と最も多く、続いて「北海道福祉人材センター・バンク」が24.8%、「法人等HP」が17.6%であった。

昨年度と比較して、「求人情報誌・フリーペーパー」が7.8%減少（令和2年度14.5%、令和3年度6.7%）した。

問10 高卒者の採用

「積極的に採用したい」が54.4%で、「条件が合えば採用する」の33.3%を合わせると87.7%を占めた。

昨年度と比較すると、「採用しない」が、8.4%減少（令和2年度13.8%、令和3年度5.4%）した。

問11 高齢者の採用

「積極的に採用したい」が24.6%で、「条件が合えば採用する」の63.2%と合わせると87.8%を占めた。

昨年度と比較すると、「採用しない」が、8.3%減少（令和2年度15.3%、令和3年度7.0%）した。

問12 正職員への転換の有無

正職員への転換について、93.0%が「ある」と回答した。

問 1 3 施設・事業所での研修体制

「施設内研修を計画的に実施している（昨年度より 9.6%増加）」49.1%と最も多く、続いて「OJT を積極的に実施している（昨年度より 10.3%増加）」が 42.1%、「外部研修に職員を計画的に参加させる」が 7.0%であった。

昨年度と比較して、「外部研修に職員を計画的に参加させる」が 18.5%減少（令和 2 年度 25.5%、令和 3 年度 7.0%）した。

問 1 4 職員の有給休暇

「概ね 5 割以上取得している」が 66.7%、「概ね 1 割以上 5 割未満取得している」が 29.8%であった。

なお、取得促進を図るために「人員を充実させ、取得しやすい環境をつくる」「1 時間単位の取得推奨」「月、金に会議をいれないようにして、土日に合わせて有給休暇を取得出来るようにしている」などの工夫をしているとの回答があった。

問 1 5 正規職員の定期昇給の有無

正規職員の定期昇給を「実施している」が、94.7%であった。

問 1 6 非正規職員（常勤・非常勤・パート）の継続雇用

非正規職員（常勤・非常勤・パート）の継続雇用を「基本的に継続雇用する」が 84.2%であった。

問 1 7 新型コロナウイルスの流行語、求人募集や採用、職員体制において変更したこと

主に、「募集活動、見学、面接、採用試験においてオンラインを取り入れた」「合同説明会の機会が減り参加・採用が減った」「全施設での集合研修は極力控え、施設単位で行う等に変更した」「コロナ対策をしている旨を求人票に記載するようにしている」「SNS の活用で職員とのコミュニケーションを取るようにしている」「学生の実習を受け入れられないため、実習から応募へ繋がりにくくなっている」などの回答があった。